平島におけるドブネズミ対策モニタリング結果（環境省）

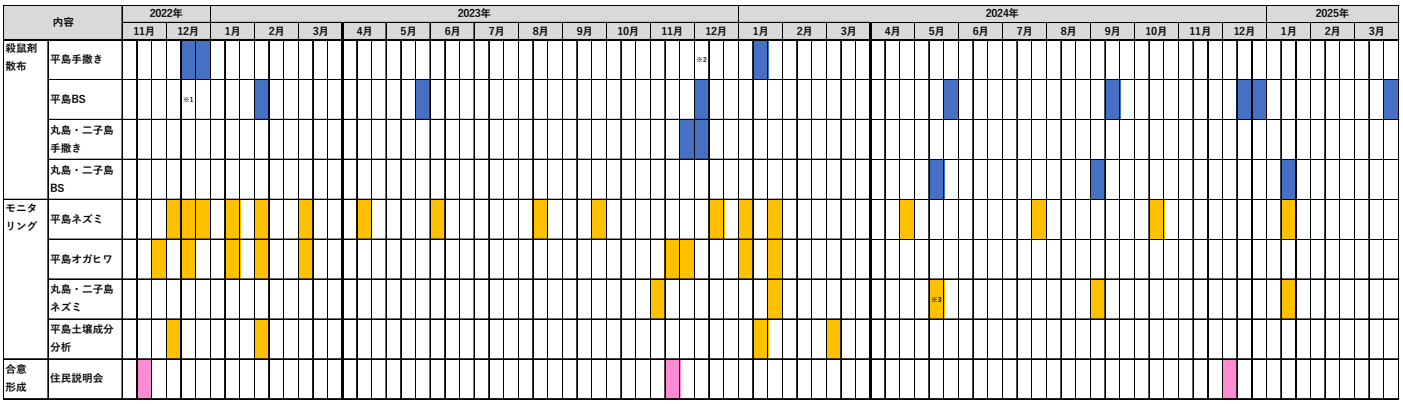
１．目的

小笠原村では、2022～2024 年度にかけて、オガサワラカワラヒワの繁殖地である平島において、ドブネズミ（以下、ネズミという）によるオガサワラカワラヒワの繁殖阻害リスクの低減を図り、同種の個体群保全に資することを目的として、ネズミ根絶を目指した対策を実施した。2025 年度からは、当該モニタリング事業が環境省に移管され、対策の効果に関する評価のためのモニタリングを継続して実施している。

２．2022 年度～2024 年度の対策状況（実施者：小笠原村）

・小笠原村が 2022 年 11 月～2025 年 3 月までに実施した、主な対策を表 1 に示した。
・平島では、2022 年 12 月 15 日から全域での殺鼠剤散布を開始した。2025 年 3 月までに手撒きによる全域散布を 2 回、ベイトステーション（以下、ＢＳ）による全域散布を 7 回実施した。2025 年 3 月時点でＢＳ174 基が残置されている（ＢＳへの殺鼠剤最終充填日は 2025 年 3 月、カメラ前 20 基の最終充填日は 2025 年 12 月）。
・平島小属島（丸島、二子島）及び周辺の離岩礁では、平島へのネズミ再侵入防止のため、丸島で 2023 年 11 月 30 日、二子島で 12 月 4 日から全域での殺鼠剤散布を開始した。2025 年 3 月末までに手撒きによる全域散布を 1 回、ＢＳによる全域散布を 3 回実施した。2025 年 3 月時点でＢＳ28 基（丸島 11 基、二子島 17 基）が残置されている（ＢＳへの殺鼠剤最終充填日は 2025 年 12 月 11 日）。

表 1　2022 年度～2024 年度の対策状況（2022/11～2025/3）



※1　オガサワラセセリ配慮エリアのみ先行してＢＳ散布
※2　急傾斜地のみ手撒き散布：紙パックにスローパック（紙パック 1 個当たり 100g 程度）を入れて投下
※3　丸島・二子島のセンサーカメラを SIM カメラに変更

３．モニタリング結果

１）平島のネズミモニタリング体制

・平島では、小笠原村が 2022 年 12 月に島内全域に 20 台のカメラを設置し、ネズミの生息状況モニタリングを開始。以降、ネズミの撮影状況や専門家の意見を踏まえ、増台しながらモニタリングを継続してきた。

・2025 年 4 月より環境省にモニタリング事業を移管し、2026 年 7 月現在、センサーカメラ 17 台、自動画像送信機能付きカメラ（以下、ＳＩＭカメラ）3 台、計 20 台のカメラでモニタリングを継続している（図 1）。

2）平島のネズミ撮影状況

・2022 年度から 2026 年度に実施した平島のネズミモニタリングでは、カメラの有効稼働率（有効稼働日数/(カメラ台数*設置日数)）は、95.0%～100.0%と高水準で推移した。(表 2)。

・2022 年 12 月 24 日～2023 年 10 月 2 日までの約 10 か月間はネズミの撮影は確認されなかったが、2023 年 10 月 2 日～10 月 15 日までの約 2 週間において 3 台のカメラで広範囲にネズミが撮影された（図 2)。その後、2026 年 6 月 9 日まで 968 日間、ネズミは撮影されていない（図 2)。

・ＳＩＭカメラ 3 台については、1 台停止中で、2 台で、2026 年 7 月 19 日まで撮影状況を確認できているが、ネズミは撮影されていない。

・林野庁で設置しているオガサワラカワラヒワモニタリング用カメラ 4 台では、上記、再撮影があった時と同時期の 2023 年 10 月に 1 ヶ所でネズミが撮影されたが、それ以降、ネズミは撮影されていない。

年度	調査期間	カメラ台数*設置日数	カメラ有効稼働日数（台日）	カメラ有効稼働率（%）	ネズミ撮影枚数（10分補正）
2022	2022/12/3~2023/3/31	2411	2411	100.0	1247
2023	2023/4/1~2024/3/31	8817	8726	99.0	5
2024	2024/4/1~2025/3/31	9731	9262	95.2	0
2025	2025/4/1~2026/3/31	7300	7015	96.1	0
2026	2026/4/1~2026/6/9	1400	1330	95.0	0

表 2　平島ネズミカメラのカメラ有効稼働率（有効稼働日数/(カメラ台数*設置日数)）

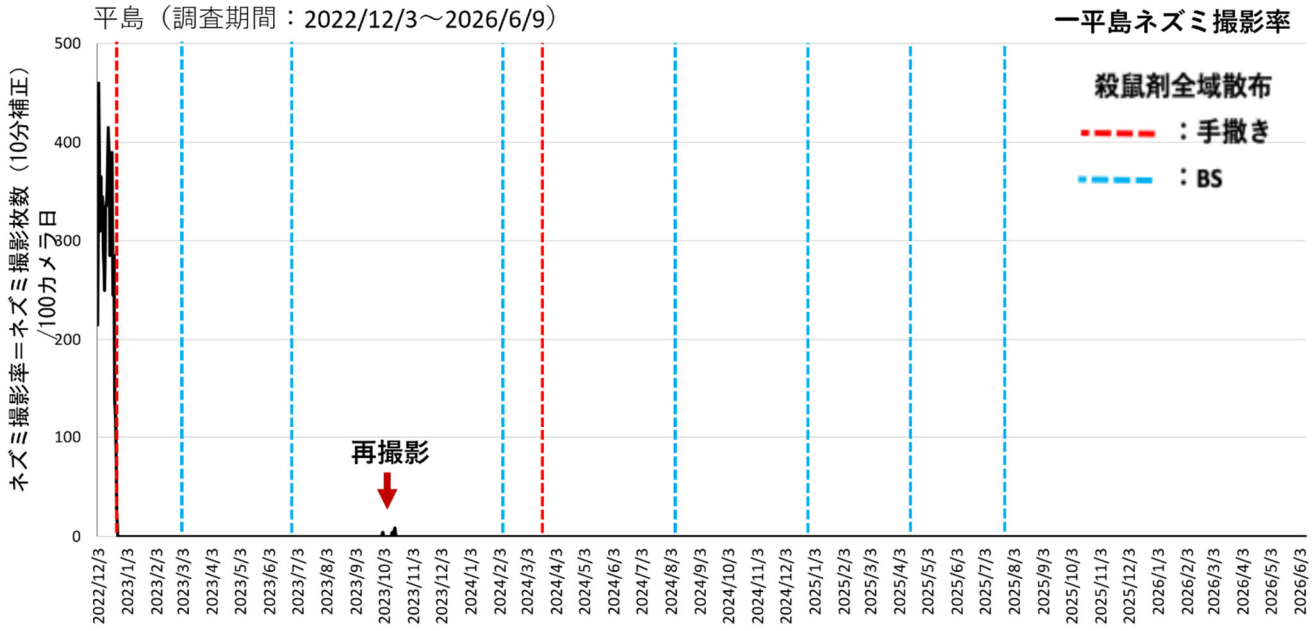


図 2　平島ネズミカメラのネズミ撮影率（2022/12/3～2026/6/9）

3）丸島・二子島のネズミモニタリング体制

・丸島・二子島では、小笠原村が 2023 年 11 月 1 日に二子島 3 台、11 月 2 日に丸島 2 台のカメラを設置した（図 3)。

・二子島は 2024 年 5 月 14 日、丸島は 5 月 15 日に、設置していたカメラをＳＩＭカメラに交換し、遠隔モニタリングを開始した。

・2025 年 4 月より環境省にモニタリング事業を移管し、ＳＩＭカメラによるモニタリングを継続している。

４）丸島・二子島のネズミ撮影状況

・2022 年度から 2026 年度までの丸島及び二子島のネズミモニタリングにおけるカメラ有効稼働率は、71.2%～100%で推移しており、調査データの信頼性は概ね確保されていた（表 3）。2025・26 年度にカメラ有効稼働率が低下した要因としては、丸島では 2 台中 1 台、二子島では 3 台中 2 台が、カメラの不具合や草木の映り込み等により、一定期間稼働が停止または無効な撮影となったことによるものであり、現在はその不具合を解消している。

・丸島は、2023 年 12 月 3 日以降、二子島は、2023 年 12 月 8 日以降、2026 年 7 月 12 日までネズミの撮影はない（図 4）。

丸島

年度	調査期間	カメラ台数*設置日数	カメラ有効稼働日数（台日）	カメラ有効稼働率（%）	ネズミ撮影枚数（10分補正）
2023	2023/11/1~2024/3/31	302	302	100.0	365
2024	2024/4/1~2025/3/31	730	668	91.5	0
2025	2025/4/1~2026/3/31	730	622	85.2	0
2026	2026/4/1~2026/7/12	103	103	100.0	0

二子島

年度	調査期間	カメラ台数*設置日数	カメラ有効稼働日数（台日）	カメラ有効稼働率（%）	ネズミ撮影枚数（10分補正）
2023	2023/11/1~2024/3/31	456	456	100.0	815
2024	2024/4/1~2025/3/31	1095	1035	94.5	0
2025	2025/4/1~2026/3/31	1095	852	82.5	0
2026	2026/4/1~2026/7/12	309	220	71.2	0

表 3　丸島・二子島のネズミカメラのカメラ有効稼働率（有効稼働日数/(カメラ台数*設置日数)）

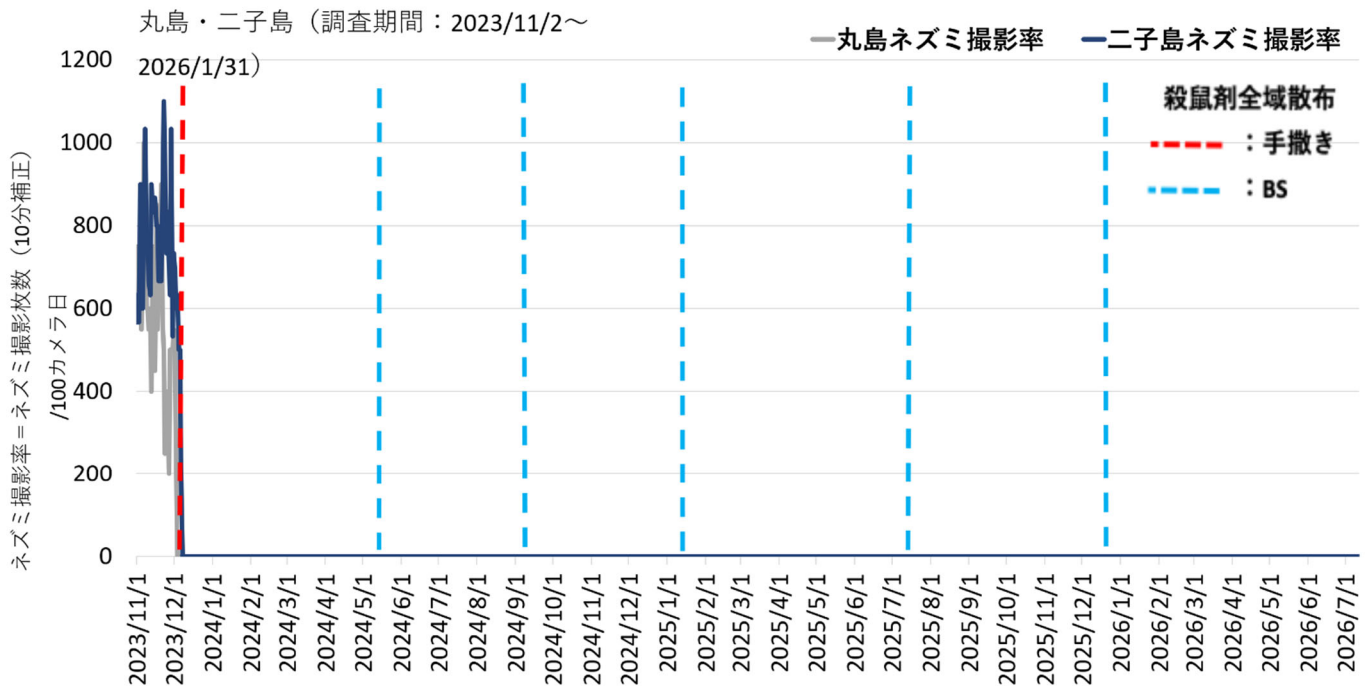


図 4　丸島・二子島のネズミ撮影率（2023/11/1～2026/7/12）

３．その他（今後の方針）

資料 3

・【母島属島におけるネズミ類対策計画】にのっとり、ネズミが確認されなくなってから 3 年間はカメラ体制を維持することとし、2026 年 10 月 16 日まで今の体制を維持したうえで、ネズミの確認がなければ、根絶宣言を出す予定。
・根絶後のモニタリング体制としては、一部カメラを残して縮小しつつ、モニタリングは継続する予定。

資料3

姪島・向島におけるドブネズミ対策モニタリング結果

１．目的

東京都では、2023～2025 年度にかけて、オガサワラカワラヒワの繁殖地である姪島・向島において、ドブネズミ（以下、ネズミという）によるオガサワラカワラヒワの繁殖阻害リスクの低減を図り、同種の個体群保全に資することを目的として、ネズミ根絶を目指した対策を実施した。2026 年度からは、両島でのネズミ対策が環境省に移管され、対策の効果に関する評価のためのモニタリングを継続して実施している。

２．姪島におけるモニタリング結果

姪島におけるネズミ類の生息状況を把握するため、40 地点のセンサーカメラ（うち 3 地点は、SIM 内蔵型センサーカメラ）によるネズミ類の撮影率の推移を確認した。2024 年度に全島で殺鼠剤の手撒き散布を実施したものの、地形的な理由から安全に手撒き散布が実施できない区域が残ったことから、2025 年 3 月 18 日より 7 月 13 日までの間に島内の複数箇所でネズミの撮影が確認された。しかし、2025 年度の手撒き散布、ドローン散布実施後の 2025 年 7 月 14 日～2026 年 6 月 29 日までは、ネズミ類の撮影は確認されていない。2023 年度から 2026 年度に実施した姪島のネズミモニタリングでは、カメラの有効稼働率（有効稼働日数/(カメラ台数*設置日数)）は、95.6%～96.1%と推移した。

また、SIM カメラにおいては 2026 年 7 月 20 日まで、ネズミ類の撮影は確認されていない。

資料３

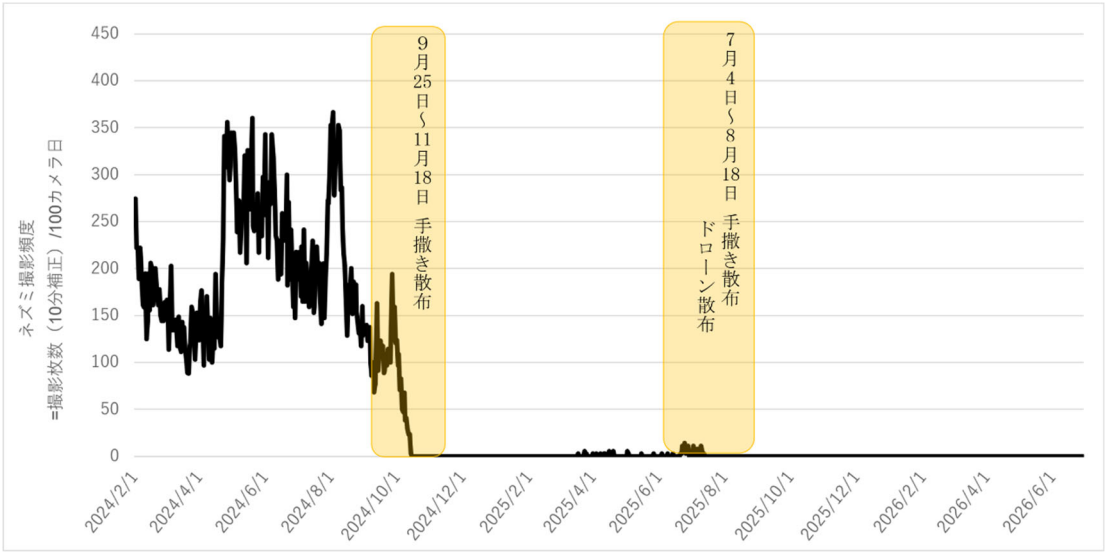


図１　姪島におけるセンサーカメラ(37 台)によるネズミ類の撮影率の推移

姪島

年度	調査期間	カメラ台数* 設置日数 （台日）	カメラ有効 稼働日数 （台日）	カメラ有効 稼働率 （%）	ネズミ撮影枚数 (10分補正)
2023	2024/2/1~2024/3/31	2182	2087	95.6	3256
2024	2024/4/1~2025/3/31	13505	12923	95.7	13545
2025	2025/4/1~2026/3/31	13505	12945	95.9	58
2026	2026/4/1~2026/6/29	3420	3288	96.1	0

図２　　姪島カメラ 37 台　有効稼働率

資料３

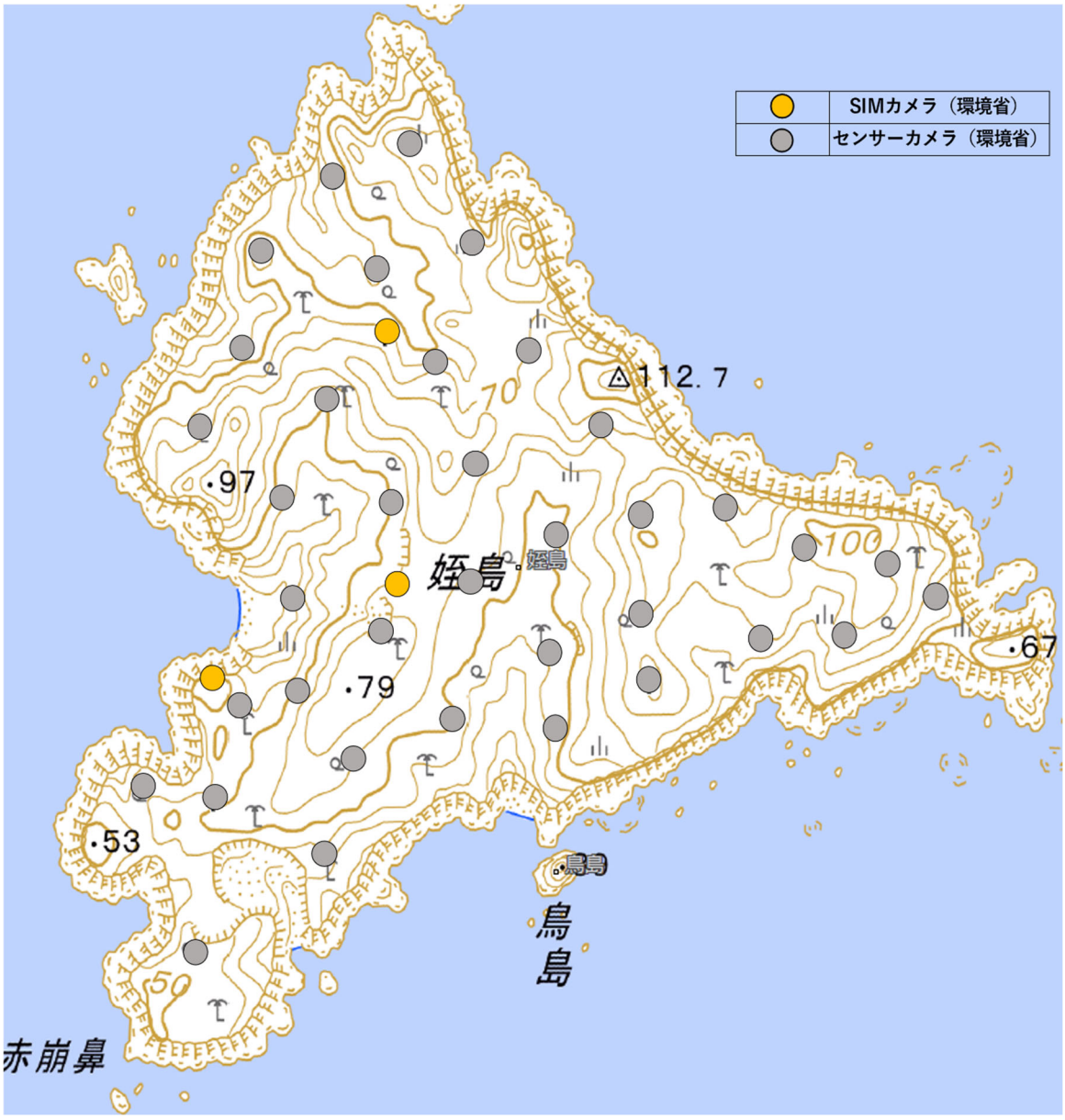


図３　姪島におけるセンサーカメラ等位置図

資料 3

３．向島におけるモニタリング結果

向島におけるネズミ類の生息状況を把握するため、38 地点のセンサーカメラ（うち 3 地点は SIM 内蔵型センサーカメラ）によるネズミ類の撮影率の推移を確認した。2024 年 10 月以降に撮影率が顕著に増加していたが、手撒き散布実施後には撮影率が減少した。2025 年 1 月 29 日～2026 年 7 月 1 日まではネズミ類の撮影は確認されていない。2023 年度から 2026 年度に実施した向島のネズミモニタリングでは、カメラの有効稼働率（有効稼働日数/(カメラ台数*設置日数)）は、90.9%～97.7%と推移した。(図 5)。

また、SIM カメラにおいては 2026 年 7 月 20 日まで、ネズミ類の撮影は確認されていない。

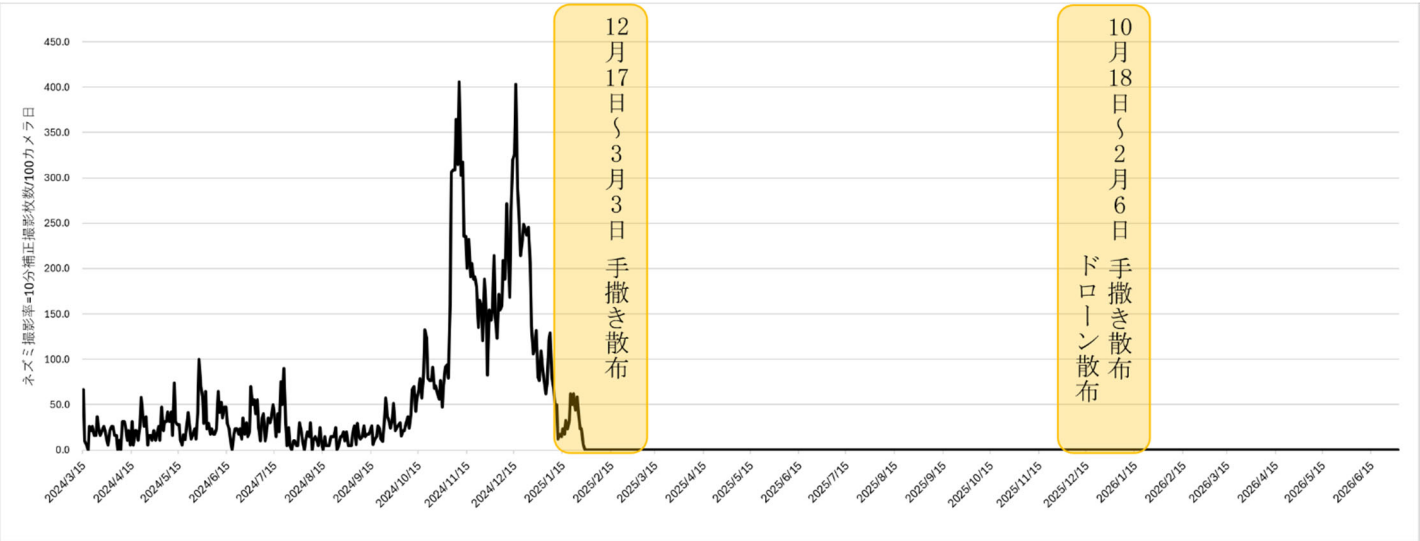


図 4　向島におけるセンサーカメラ(35 台)によるネズミ類の撮影率の推移

向島

年度	調査期間	カメラ台数* 設置日数 （台日）	カメラ有効 稼働日数 （台日）	カメラ有効 稼働率 （%）	ネズミ撮影枚数 (10分補正)
2023	2024/3/15~2024/3/31	316	299	94.6	56
2024	2024/4/1~2025/3/31	10364	10122	97.7	6348
2025	2025/4/1~2026/3/31	12775	12333	96.5	0
2026	2026/4/1~2026/7/1	3220	2927	90.9	0

図 5　向島カメラ 35 台　有効稼働率

資料３

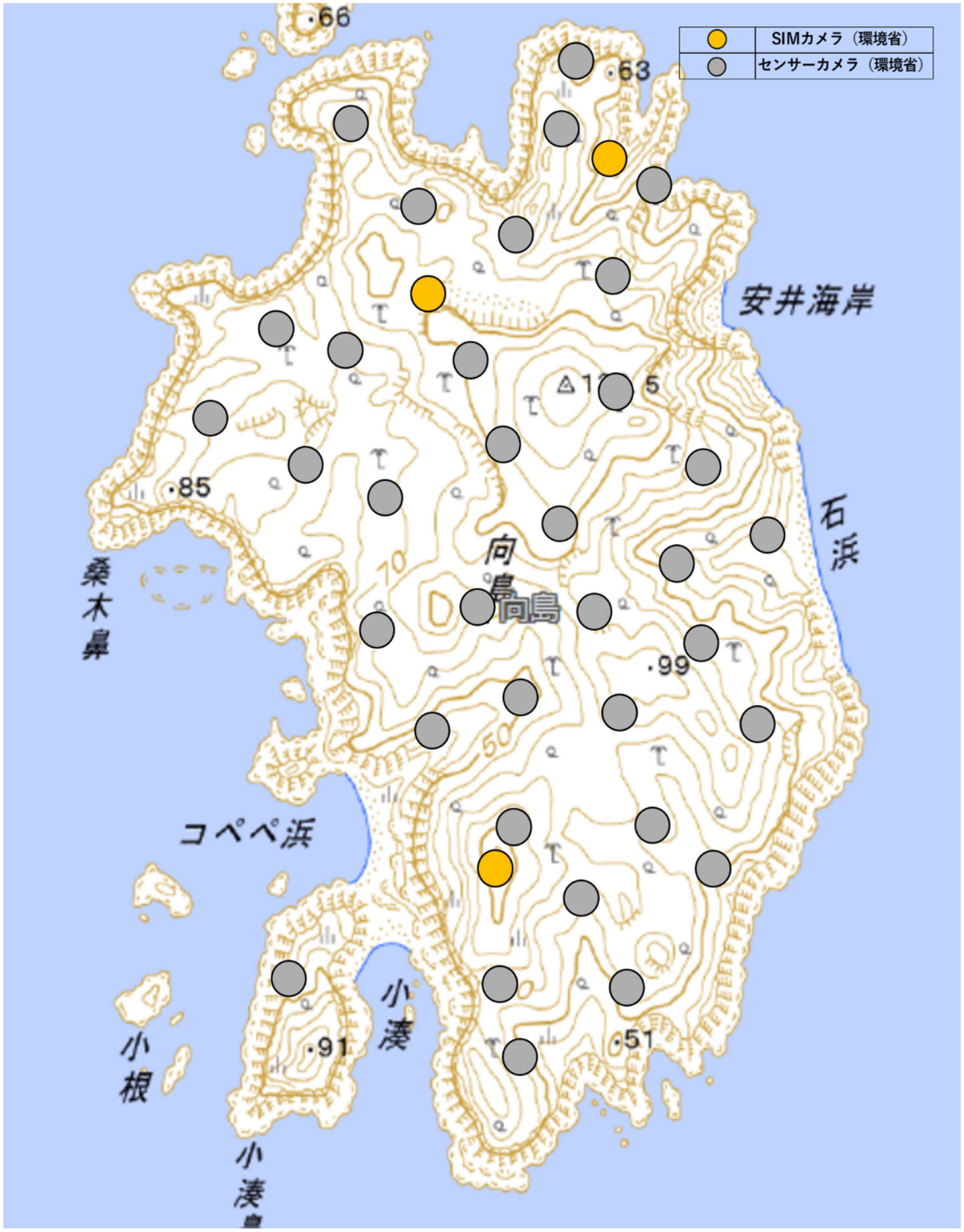


図６　向島におけるセンサーカメラ等位置図

資料 3

4. 今後の方針

年度内のカメラ点検は、秋（9～10 月）と冬（1 月～2 月）の 2 回実施予定。秋点検の結果、いずれかの島でネズミが確認された場合は殺鼠剤の手撒きを実施予定。複数の島で確認された場合は対策優先度に応じて実施。

一方、冬点検でネズミが検出された場合、冬季の海況を考慮すると年度内の手撒き散布が遂行できないことが予想される。そのため、秋点検時にネズミの検出がなかった場合、冬点検の結果を待たずに向島及び姪島でベイトステーションへの充填を各 1 回実施することで、冬以降のネズミ増加を抑える。その上で、冬点検でネズミが検出された場合は、4 月以降に手撒き散布を実施できるよう調整する。※10 月後半の平島のカメラモニタリングの結果、海況により方針は変わる可能性あり

・向島における非標的種の殺鼠剤喫食

向島でアカガシラカラスバト、およびメグロが殺鼠剤を喫食する様子が撮影された。特に、メグロについては BS 内に侵入して喫食している様子も確認された。なお、両種の殺鼠剤喫食については昨年度時点でも確認されている。現状ではメグロによる喫食は 1 か所の BS で 3 月後半まで継続的に映っている状況であった。広範囲で高頻度での喫食発生等が生じないか、引き続きカメラ調査を実施し、殺鼠剤によるメグロへの影響の有無を引き続き監視する予定。



写真 1　殺鼠剤を喫食するメグロの様子

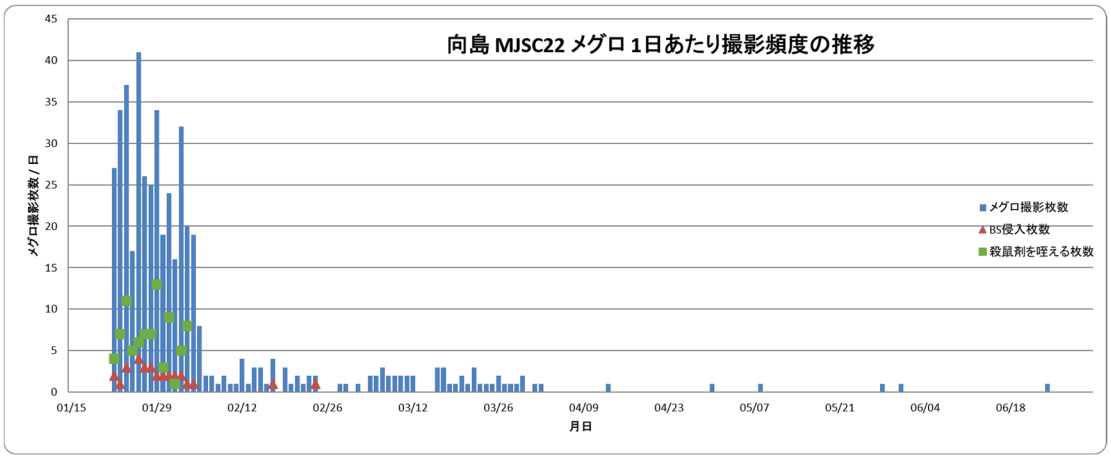


図 7　メグロの喫食頻度の様子

資料3

鰹鳥島でのクマネズミ対策について

【経緯】

鰹鳥島は、かつてネズミ対策が進んでいない状態であったところ、R6 年度に実施したネズミ類移動性解析手法検証業務（請負者は国立環境研究所・片山先生）において、鰹鳥島にいるネズミがドブネズミではなく、クマネズミであることが分かっている。

鰹鳥島から丸島・二子島までは 1㎞ ほどのため、鰹鳥島から丸島・二子島を経由して、平島にネズミが移動する可能性は十分にあると考えられる。そこで、鰹鳥島におけるネズミの根絶を目指し、2026 年 3 月にドローンによる殺鼠剤の散布を実施した。今年度はカメラを 2 台設置し、ネズミモニタリングを実施している。

【散布】

上記を踏まえ、鰹鳥島・中鰹鳥島・小鰹鳥島全域に、ドローンによる殺鼠剤散布を実施。

●導入技術・手法

姪島・向島で使用したものと同機となる「マトリス 350」散布機を使用（1 フライト 0.6kg の殺鼠剤を散布可。散布機は、封筒に梱包した殺鼠剤だけでなく、「粒剤」の散布にも対応できるよう改良済。散布機と送信機の通信不良も改良済）。船と陸の 2 オペレーションで実施。

ドローンの離発着は、南崎・小富士から実施。

●実施期間

3/1～3/7 の間で 5 日間。

●殺鼠剤

大塚薬品工業（株）製ヤソヂオン。

散布後の降雨等による殺鼠剤劣化抑制のため、撥水性のある封筒（二重）に粒剤を封入したものを散布。

資料 3

【結果】

・5 日間の散布作業を実施し、合計 152.4kg の殺鼠剤を散布。
散布密度は 36.7kg/ha を達成。

・散布を予定していた 21 地点のうち、No18、No20 の 2 地点に関しては植生がなく、海洋流出の危険性が高かったため、植生のある内陸側の安全な地帯への散布を実施。

・殺鼠剤全てが落下地点のほぼ直下の植生に留まったため、海洋流出は 0 件。

・鳥類によるドローンに対する警戒行動等は、確認されなかった。

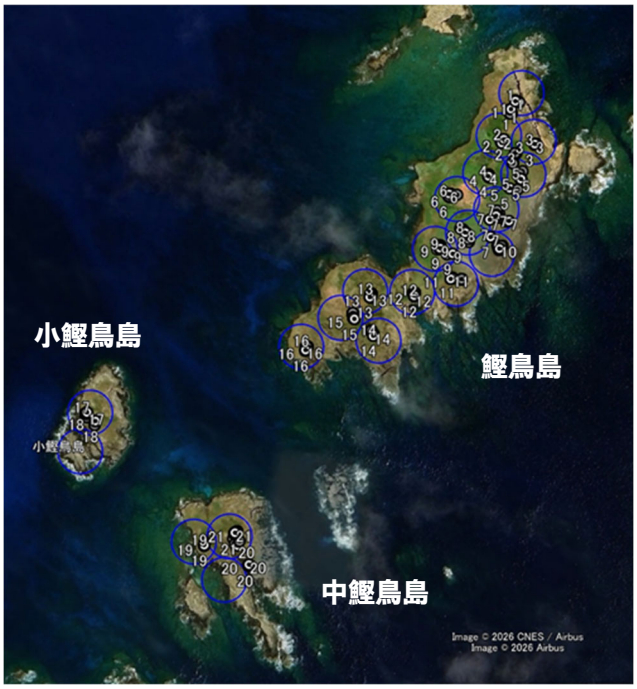


図 1　散布位置

作業日	散布エリア	散布地点数	フライト数	散布量(kg)
3月1日	中鰹鳥島	2	12	7.2
3月2日	鰹鳥島	9	55	33
	小鰹鳥島	2	9	5.4
3月3日	鰹鳥島	9	54	32.4
	中鰹鳥島	1	6	3.6
	小鰹鳥島	2	9	5.4
3月4日	海況不良により中止			
3月5日	鰹鳥島	10	61	36.6
3月6日	強風により中止			
3月7日	鰹鳥島	4+2(追加)	27	16.2
	中鰹鳥島	2	12	7.2
	小鰹鳥島	2	12	7.2

図 2　工程

資料 3

【カメラモニタリング】

・鰹鳥島では、2026 年 2 月 24 日に 2 台のカメラ（5 月 28 日より SIM カメラ）を、北部林内に設置し、ネズミの生息状況モニタリングを開始。

・殺鼠剤散布後、低密度化が図られたかと思われたが、4 月 18 日、5 月 16，17 日に、ネズミの撮影があった。

・2026 年 2 月 24 日～2026 年 7 月 20 日までのネズミモニタリングでは、カメラの有効稼働率（有効稼働日数/(カメラ台数*設置日数)）は、1 台の落下があったため、61.2%と低かった（表 1）

・2026 年 5 月 28 日に、カメラ点検とカメラ前の BS への殺鼠剤充填を実施。5 月 17 日以降は撮影がない状況であり、今後も撮影状況を注視していく予定。



図 3　カメラ設置位置

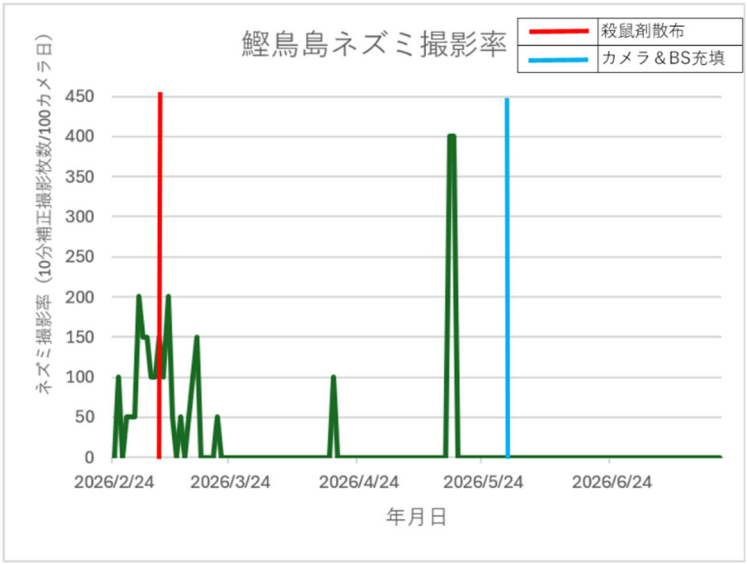


図 4　鰹鳥島のネズミ撮影率

鰹鳥島

年度	調査期間	カメラ台数*設置日数（台日）	カメラ有効稼働日数（台日）	カメラ有効稼働率（%）	ネズミ撮影枚数（10分補正）
2025	2026/2/24~2026/3/31	72	72	100.0	37
2026	2026/4/1~2026/7/20	103	63	61.2	9

※10 分補正：10 分間に複数回撮影された場合、同一個体とみなす補正を実施.

表 1　鰹鳥島ネズミカメラの有効稼働率

資料 3

令和 8 年度オガサワラカワラヒワの人工給餌

オガサワラカワラヒワの人工給餌について、過年度の検討会よりご助言いただいた「平島にオガサワラカワラヒワが集まっているため、ネズミ対策を実施している姪島・向島への分散」、「繁殖期・巣立ち期の幼鳥の生存率を高めるための餌場の重要性」を踏まえ、今年度より平島・向島・姪島において、人工給餌を実施した。（平島はアイランズケアが 2024 年から実施している餌場を引き継いでいる）

表 1　令和 8 年度の人口給餌実施計画

場所	設置個所数	実施期間	実施手法	点検頻度	餌料
平島	1 か所	6～12 月ごろを想定	自動給餌式（バケツ式）	年 3 回程度	麻の実
姪島	1 か所			ネズミカメラモニタリング時に実施	
向島	1 か所			他業務で上陸した際に随時点検を実施	



図 2　餌場の様子

【給餌状況】

・平島・向島・姪島において、設置直後より餌場への飛来を確認している。

・SIM カメラで、猛禽類による捕食等が発生していないか確認（現在、未発生）。

・今年６月の林野庁の平島における標識調査において、捕獲個体数 85 個体のうち、足が奇形である個体を１個体記録（図３）。他にも、同様の症状を 2～3 個体確認している。



図３　足が曲がっている個体（平島　成鳥　メス）

【今後の方針】

麻の実は、栄養価が高い一方で、リンとカルシウムのバランスが悪く、麻の実だけを幼鳥に与えている親鳥がいると、カルシウム欠乏症になる可能性が考えられる。

今後も、幼鳥の生存率を高めるために、適宜人工給餌を実施していく予定だが、情報を集めつつ、ボレー粉（カキガラ）等を追加するといった麻の実だけではない代替の餌等を検討する。

上野動物園では、ボレー粉以外にも様々な鉱物が入っているプラスリンという商品をオガサワラカワラヒワに与えており、まずは喫食実績のあるものを使用していくことを検討する。

参考

プラスリン

https://www.iizuka8108.com/pluslin/